令和４年度厚生労働科学研究補助金（障害者政策総合研究事業）

児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究

分担研究報告書

分担研究課題名：子どもの心の診療研修に関する調査
－テキストマイニングによる研修内容の解析－

分担研究者　小枝 達也　　国立成育医療研究センターこころの診療部

研究要旨
目的：子どもの心の診療に関する研修の内容を調査することを目的とする。
対象と方法：精神科系、小児科系、心理系の学会や団体から、学術集会、研修会、セミナー等で配布した子どもの心の診療に関連する抄録を収集し、文字データ化をしたうえで、KH Coder を用いてテキストマイニングを行い、キーワードの出現頻度を求めるとともに、診療実態と比較して、不足している研修内容を抽出した。
結果：13 の学会や団体より 201 演題の抄録を収集することができた。文字化したデータ数は 1,992,331 であった。このデータから子どものこころの診療に関連するキーワードを選定し、その出現頻度を求めた。
その結果、出現頻度の高い上位 5 つは、発達障害が 1421、学校が 1201、ASD が 1145、連携が 545、福祉 483 であり、上位 3 つが突出して高かった。これらのキーワードをカテゴリ化して診療実態と比較したところ、ICD-10 の F4（身体表現性障害等）が診療実態では 22.9%であるのに対して、研修の割合では 7.9%と少なかった。また関係機関との連携では診療実態では、福祉との連携が 45.8%であるのに対して研修の割合では 24.5%と少ないという結果であった。
考察：子どもの心の診療に関する研修の内容で、出現頻度が高いキーワードを抽出することができた。また、診療実態との比較で研修の頻度が少ないと思われる内容を抽出することができた。こうした情報を関連する学会や団体に還元することによって診療実態に合わせた研修が実施されることが期待される。

研究協力者
奥野 正景　（三国丘病院　三国丘こころのクリニック）
西牧 謙吾　（国立障害者リハビリテーション病院）
小倉 加恵子（国立成育医療研究センター　こころの診療部）
岡田 俊　（国立精神神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部）
飯田 順三　（医療法人南風会万葉クリニック子どものこころセンター絆）
竹原 健二　（国立成育医療研究センター　政策科学研究部）
小河 邦雄　（国立成育医療研究センター　政策科学研究部）

A．研究目的

本研究の１年目と２年目に、全国の精神科医療機関と小児医療機関を対象に、診療実態を把握するためのカルテ調査とアンケート調査を実施し、児童・思春期精神疾患の診療実態を明らかにした。

３年目は子どもの心の研修に関する調査を実施し、診療の実態と比較することにより、不足している研修を明らかにすることを目的とする。

B．研究方法

子どものこころの診療にかかわる全国規模の精神科系、小児科系、心理系の学会や団体から、学術集会等での教育講演やセミナー等の抄録を収集し、文字データ化して、研修に関するキーワードの抽出は KH Coder を用いてテキストマイニングを行い、その出現頻度を求めた。抽出されたキーワードを診療実態と比較できるカテゴリに分類し、診療実態との比較を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は学会等での抄録集にかかれている文章を調査の対象とした研究であり、倫理委員会への申請は不要である。収集される情報には個人情報は含まれておらず、特定の企業団体との利益相反もない。

C．研究結果

次に示す 13 の学会や団体より協力が得られ、201 講演の抄録を収集することができた。

日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本思春期青年期精神医学会、日本精神科病院協会、全国児童青年精神科医療施設協議会、日本児童青年精神科・診療所連絡協議会、日本小児精神神経学会、日本小児科学会、日本小児神経学会、日本小児心身医学会、日本小児科医会、日本公認心理士協会、日本臨床心理師会

それらの抄録を文字データ化したところ、1,992,331 文字であった。これを KH coder を用いてテキストマイニングを行った。複合語検出により、2210 種の複合語が検出された。それを基に、疾患や状態を表すキーワード 35、治療や指導に関するキーワード 15、連携に関するキーワード 7 を選定し、複数の類義語はその中の代表的なキーワードにまとめていき、最終的に 40 のキーワードとしてその出現頻度を求めた。

以下にキーワードの出現頻度を示す。

キーワード	出現回数
発達障害	1421
学校	1201
ASD	1145
連携	545
福祉	483
ADHD	359
不登校	359
統合失調症	289
薬物療法	264
摂食障害	191
行動療法	185
いじめ	182
非行	163
児童相談所	149
知的発達症	139
限局性学習症	111
支援教育	98

心理療法	97
心身症	85
司法	75
メディア	61
インターネット	59
警察	57
家族支援	56
強迫性障害	55
気分障害	54
生活習慣	54
学校教育	45
不安障害	42
自殺企図	39
生活リズム	23
希死念慮	17
睡眠リズム	14
地域連携	14
禁煙	7
ゲーム依存	4
食育	4
心理面接	3
早寝・早起き	2
虞犯	1

出現頻度の高い上位 5 つは、発達障害が 1421、学校が 1201、ASD が 1145、連携が 545、福祉 483 であり、上位 3 つが突出して高いという結果であった。

この研修に関する抄録から得られたキーワードの頻度と 1 年目および 2 年目に実施したカルテ調査の結果と比較するために、ICD-10 の F コードに合わせる形でキーワードをまとめた。

その結果を次の表に示す。

F	内訳	頻度	割合%
F2	統合失調症	289	12.5
F3	気分障害、うつ状態	78	3.4
F4	心身症、不安障害、強迫性障害等	182	7.9
F7	知的発達症	139	6.0
F8	自閉スペクトラム症、限局性学習症	1256	54.5
F9	ADHD	359	15.6

また関係諸機関の連携について次の表に示したように連携先別に振り分けて頻度を算出した。

結果を次の表に示す。

連携先	内訳	頻度	割合%
教育	学校、特別支援教育、学校教育	1343	51.9
福祉	福祉、児童相談所	632	24.5
保健	保健	477	18.5
司法	司法、警察	132	5.1

D. 考察

これまでのカルテ調査により、子どもの心の診療実態として、ICD-10 の F コードでは下記の表になる。

F	頻度(人)	割合%
F2	18	1.9
F3	29	3.0
F4	218	22.9
F7	72	7.6
F8	421	44.2
F9	194	20.4

研修の頻度と比較すると F4 に対する研修の割合が少ないものと思われる。

これまでの調査により、子どもの心の診療実態の連携先としては、次の表になる。

連携先	割合%
教育	46.3
福祉	43.5
保健	5.1
司法	1.3
他の医療	22.2

これと研修の頻度と比較すると、福祉との連携に関する研修が少ないことが示唆される。

E. 結論

診療実態と研修内容との比較から、疾患としては F4 の研修が少なく､連携としては福祉との連携に関する研修が少ないことが示唆された。

今回調査に協力いただいた学会や団体にこの結果を還元することで、診療実態に合わせた研修になる事が期待される。

追記

令和 5 年 1 月 15 日に協力いただいた学会や団体に参集して頂き、子どもの心の診療研修に対する考えを聴取した。また今回の調査結果を還元した。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

小枝達也，五十嵐　隆，奥野正景，西牧謙吾，小倉加恵子，竹原健二，加藤継彦，青木さやか，黒神経彦，岡田　俊，飯田順三．子どもの心の診療実態と研修実態に関する検討．第 126 回日本小児科学会　分野別シンポジウム 5．2023 年 4 月 14 日

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし